

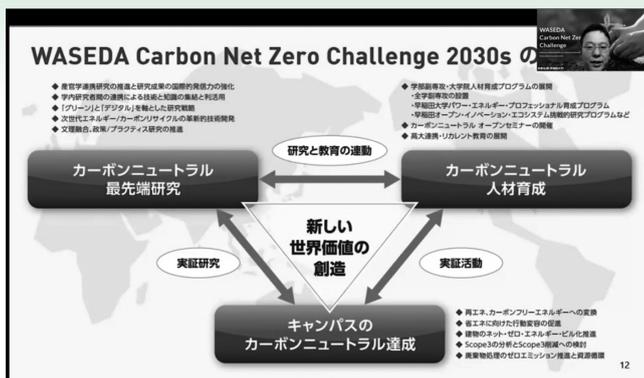
まん延防止等重点措置期間中の開催となりました
第38回総会・研修研究会(2022年3月17日ほか)
は全面オンラインにて行われました。

私立大学環境保全協議会
Environmental Protection Association of Private Universities

第38回総会・研修研究会

第1部 総会・講演会 **第2部 グループ討議**
2022年3月17日(木) 2022年3月18日(金) 9:00-11:30
オンライン開催ライブ配信 オンライン開催
3月24日～4月17日オンデマンド配信予定

<p>【総会】 13:00～13:30</p> <p>【研修研究会】</p> <p>1. 開会挨拶 13:40～13:50</p> <p>2. 特別講演 13:50～14:40</p> <p>「早稲田大学における『研究×人材×社会』の三位一体によるカーボンニュートラル実現への展開」 早稲田大学先進理工学部電気・情報生命工学科 教授 林 泰弘</p> <p>3. 研修講演 14:45～15:35</p> <p>「デジタル駆動・超資源循環参加型社会の構想」 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 田中 浩也</p> <p>4. 話題提供 15:40～16:30</p> <p>「カーボンニュートラルを巡る国内外の動向・取組みについて」 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム 田原 靖彦</p> <p>5. 閉会挨拶 16:30～16:40</p> <p>【オンライン交流会】 17:00～18:30 (予定)</p> <p>会員間の交流の機会が長きにわたりご提供できていないことから、実際の立食パーティーに近い感覚で使用できる「Spatial Chat」というツールを用いたオンライン交流会を開催します。 (事前申し込みやアプリのダウンロードは不要です。PCやスマートフォンのブラウザから接続できます。) 詳しい操作方法ならびに接続情報は、研修研究会に参加お申込みをされた皆様へ、講演資料と同時に配信させていただきます。お手元にお飲み物を用意させていただきます。入室・退出も自由にできますので、どうぞご自由にご覧ください。</p>	<p>◇Iグループ：教育と連携 「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアアクションについて」 (グループ内講演) ・東海大学における脱炭素に関わる研究ならびにその取り組み 東海大学教養学部人間環境学科教授 小栗 和也 ・新宿区のゼロカーボンシティ構想について (事前収録) 新宿区環境清掃部環境対策課長 向 隆志</p> <p>◇IIグループ：化学物質 「新実験棟建設やゼロエミッション化に向けた対応などについて」 (サブグループ) A 実験棟建設・局所排気装置について B 高圧ガスについて C 化学物質管理について (Bグループ内講演) ・実験施設にかかる高圧ガス保安法への対応について (仮) 株式会社巴商会 技術本部 営業技術部 吉田 憲司</p> <p>◇IIIグループ：施設・設備 「2つのキーワードから大学の施設・設備を考える」 (コーディネータによる情報提供) 建物OS「DX-Core」について 清水建設株式会社 LCV 事業本部 BSP 事業部 BSP 部 主査 柳町 正彦 ・大学のカーボンニュートラル化に向けた取組みの現状 日建設計総合研究所環境部門 理事 河野 匡志 ・脱炭素社会の実現に向けて 東京ガス株式会社 都市エネルギー事業部公益営業部 部長 佐藤 昭彦 ・早稲田大学のカーボンニュートラルに向けた取組み ～まずはエネルギー見える化～ 東京電力エナジーパートナー株式会社販売本部法人 営業部都市事業ユニット 課長 藤井謙・ 渡邊圭介</p>
--	--



講演会は前回同様 Zoom ウェビナー機能により配信し、後日オンデマンドでもお届けしました。また、前回同様、ライブ配信の講演の休憩時間に、賛助会員の紹介動画を配信しました。



グループ討議の様子
対面でのみ参加可能として企画した今回のグループ討議でしたが、全面オンラインとなってしまいました。それでも回を重ねるごとに少しずつ工夫をこらし、参加者の慣れもあって、意見交換もスムーズになってきました。一方で、対面での開催を期待する声も多く聞かれました。

第35回夏期研修研究会は2022年8月に早稲田大学にて対面を中心とした開催を予定しております。
p8「事務局だより」をご覧ください。

CONTENTS

環境ニュース●宇佐見則行教授インタビュー	2
会員校紹介●岡山理科大学	4
会員校紹介●芝浦工業大学	5
賛助会員紹介●エコシステムジャパン株式会社	6
賛助会員紹介●島津トラステック株式会社	7
コラム、事務局だより	8

北陸大学 薬学部 薬学科 宇佐見 則行教授 インタビュー



“心電図”との出会いに心が動かされ イエスマンに徹することで幸運を手繰り寄せる

麻薬、危険ドラッグといった毒薬物を鑑定する。刑事系のドラマや映画でよく見る光景ですが、そんな世界に身を置いているのが、薬剤師であり、大学で毒薬物研究に従事する宇佐見則行教授です。ですが、もともとは薬学部ではなく、コンピュータの専門学校へ進学するつもりだったと言います。

「小さいころから漠然とですが、医療現場で活躍する医師や、教壇に上がって教鞭をとる教師になりたいという“夢”に近い思いがありました。ですが、引込み思案で人見知りだったこともあり、憧れに留まる程度。また農家の家庭に育った私は、高校を卒業したら手に職をつけて働か、『何もすることがないなら農家を継げばいい』と父親に言われながら育てられた。理由はわかりませんが、農家だけは絶対に嫌でしたね(笑)。コンピュータの専門学校に進学しようと思ったのは、発展途上で未知の領域に魅力を覚えたのと、ITスキルが手に職と合致していたこと。あとは、高校のときの友人の自宅にあったコンピュータを使って、会計ソフトをいじったり、簡単なC言語を入力してプログラムを組んだりして、彼と一緒に遊ぶのが楽しかったからです。小学生の頃から自転車を分解して組み立てるなど、モノづくりが好きだったことが影響していたのかもしれない」

しかし、毎年9月に開催されていた高校のマラソン大会の開催に向けて行われた健康診断で、“心電図”と運命の出会いを果たします。宇佐見教授は当時をこう振り返ります。

「高校2年生のときに開催された校内マラソン大会で、3年生の先輩が心不全で亡くなったんです。それで翌年から、大会前に全校生徒を対象に心電図検査を行うことになった。この検査をきっかけにして『臨床検査技師』という職業を知りました。医師は難しくても憧れていた医療現場で働くことができる。心の中で何かが弾けた感じです」

高校3年生の初秋、受験科目さえ把握しないなか大学受験勉強を開始します。「北陸大学の薬学部に拾ってもらえていなければ、今の私はいない」と宇佐見教授は言い切ります。

「でも結局……、当時から北陸大学は薬物の毒性を研究していた全国でも数少ない大学のうちのひとつだったのですが、大麻や覚醒剤といった毒薬物の研究に没頭しすぎて、4年生のときに単位を落としてしまったんです。臨床検査技師になるための国家資格を受けることができませんでした(笑)」

大学からそのまま大学院に進学し、助手として主に大麻

の毒性や成分分析の研究を継続。1994年6月27日に長野県松本市で発生した重軽傷者約600人と、近年類を見ないテロ事件・松本サリン事件では、事件性に関して調査をするために現場に赴いたそうです。

大学院修士課程を修了したあとの宇佐見教授は、富山県にある製薬会社に会社員として2年間ほど勤務し、北陸大学薬学部助手、岐阜薬科大学研究助手、九州保健福祉大学薬学部講師、奥羽大学薬学部准教授・教授を経て、今から8年前の2014年4月に母校に戻り、今に至ります。

「教授同士の間では決定事項になっているからと告げられて、岐阜薬科大学から九州保健福祉大学へ赴任したり、薬剤師の国家試験の対策として来て欲しいと誘われて奥羽大学で教鞭を取ったりと、こうして過去を思い返してみると、私は典型的な“イエスマン”だったような気がします。もちろん、体よく利用されるリスクはありますが、その一方で、チャンスや選択肢を広げて増やす可能性を秘めているのも事実です。中学生、高校生の頃から夢を叶えるために、着実に努力を重ねていくのも魅力的な人生だし、私のように、漠然とした憧れを頼りにその世界に飛び込んで、勉強しながら自分の人生を歩むのも、ハラハラドキドキできっと面白い。没頭する何かが見つからないでもあきらめず、ゆとり探せばいいのかなと思います」

後ろを振り返ったときに一本道が続いているのに気づく。人生の醍醐味と言えるのかもしれない。

若年化する薬物乱用 病気を知ることで健康を誘う

毒薬物の毒性や成分を分析している宇佐見教授の研究室では、“鑑識”という観点から毒薬物の研究に力を入れていると言います。

「例えば、種と肥料がセットになって売られていた商品に付けられた栽培方法について書かれた解説書と、実際の大麻の育成方法の間に相違があるかどうかを鑑定してほしいと検察庁から依頼。調査をした結果、大麻の育成方法と一致したため、実際に大麻を栽培していなくてもお店が摘発されたケースがあります。また、自分用に自宅で薬物を栽培する人がいますが、そう



薬物乱用防止教室(オンライン授業)



薬物乱用防止教室（対面授業）

した人から警察が押収した毒薬物に対して、育成期間や成分含量の変化などの分析を行ったりしています」

さらに、厚生労働省の薬物乱用防止指導員としてだけでなく、無料

でのボランティア活動を通じて、薬物乱用防止のための啓発活動に尽力しているそうです。その背景には、薬物乱用の若年化があると宇佐見教授は嘆きます。

「共働き世帯が増えて孤独感を覚える子供が増加。加えて、アイドルの名を冠した薬物が巷に出回るなど、危険ドラッグが身近な存在になっていることが否めません。実際、誘われて断れるのは100人いたら一人しかいない。それくらい人間は快樂の誘惑には弱い。なので、断る勇気より、逃げる勇気と、見知らぬ人が近づいてきたときはダッシュで逃げられる距離を保つことの重要性を伝えています」

昔は、「薬物には絶対に手を出すな」といったダメダメ教育でしたが、今は少し違うようです。

「映像を通して、危険ドラッグにハマるといかに身を滅ぼすか。その悲惨さと恐怖をその目で観て知ってもらい、自分を守るために使わないといった判断を下せる、そんな強い心を持てるような教育を心がけています。“地球環境の保全”はもちろん大切ですが、同じように“心の健康の保全”も無視できないと考えています」



「薬物乱用防止教育をみんなで考える」をテーマに学園祭でブースを出展

毒薬物の研究だけではなく、薬に頼らない“予防”という観点からもアプローチしていると宇佐見教授は言います。

「コロナ禍で自分の身心と向き合う時間が増えましたが、健康は“食”、“運動”、“睡眠≒休養”の調和が取れて実現します。いまだ解明されていない部分の多い睡眠のメカニズムですが、九州保健福祉大学薬学部で行ったプロジェクト研究『宮崎県海産物を中心とした海洋性バイオマス中に不眠の改善を目的とした睡眠促進物質を探す』では、カツオやマグロといった回遊魚に多く含まれている物質、具体的にはヒスチジン含有のジペプチド、カルノシン、アンセリン、ホモカルノシンですが、これらには睡眠促進物質(SPS)が含まれていることを見出しました。つまり、睡眠に問題を抱えているなら食生活を見直すだけでも健康へ近づくことができるということです。それは、不健康→病気→薬という流れを考えれば、可能な限り薬に頼らない生活を叶えることにもなります」

病気を正しく知ることが、健康を誘い、結果として薬か

ら縁遠い生活を送ることに繋がるのです。

会社員時代の経験を生かして 企業が望む人材を育成していく

大学院修士課程を修了した後、製薬会社に就職した宇佐見教授。企業勤めを二年間したことで、企業が求められる人材育成を踏まえた大学教育を行うことができていると言います。



宇佐見研究室のメンバー(5年生2名と6年生3名)

そのひとつが“ポジティブな行動変容”です。

「引込み思案で人見知りだった私が、今こうして人前で立てるようになったのは、中学から大学にかけて性格を変えることができたのが大きい。というのも、私は名字が『ウサミ』なので、中学のときから出席番号が一番という理由から、学級委員、弁論大会での弁士など、誰もやりたがらない役割をいろいろと任されることが多く、コミュニケーションはもちろん、強制的に行動を変えざるを得なかったんです。でも、そのおかげで多くの機会に恵まれ、人生のターニングポイントを引き寄せることができたと思っています。だから学生たちにも、ボランティア活動に同行させるなどして、ポジティブな行動変容が行えるように指導しています」

医療技術の高度化や医薬分野の発展にあわせて、高度な薬剤師を育成するために、薬学部が4年制から6年制になったのが2004年のこと。現在、宇佐見教授の研究室では5年生2名、6年生3名、計5名が日夜研究に没頭しています。研究を通して、学びを得て次に繋がる“いい失敗のススメ”や“問題解決能力”の重要性を伝えていますが、その他にもご自身の転勤から得た“自分らしさを失わない仲間の増やし方”についても学生たちに伝えているそうです。

「毎日ゴミ拾いを続けていれば、誰かが手伝ってくれるように、仲間に取り入るのではなく、自分の世界を築くことで人が寄ってくるような環境を作ること意識するように教えています。最終的には、医者が処方した薬をただ横流しするのではなく、患者の変化を決して見逃さず、薬学的な観点から患者の健康をサポートできる“かかりつけ薬剤師”のような患者から信頼される人材になることを期待しています」

インタビューを終えて

体を動かすのが大好きと嬉々として話す宇佐見教授。いろいろなスポーツやアミューズメントが詰まった施設「スポッチャ」に行けば、学生たちに負けずと張り切るそうです。休日は、飼っている犬と公園を走り回ったりすることも多いそう。ただ、多趣味なのでそのときの気分で過ごし方が変わるとか。

会員校紹介

このページでは毎回、会員である大学の環境問題への取り組みを紹介していきます。

岡山理科大学

大学紹介

1964年、西日本初の理学部単科大学として開学。現在では8学部20学科1コースを擁し、私立大学としては中四国最大規模の大学に発展してきました。

開学当初から教員養成に力をいれ、特に中学校理科・数学の教員採用数では毎年全国トップクラスの実績を誇っています。

教育プログラムもユニークで、世界標準の教育プログラム「国際バカロレア(IB)」の教員養成プログラムを国内の大学(学部として)で初めてスタート。1期生は46名がIB教員(日本語DP)の資格を取得しました。また、学部学科の枠を超えたブランドプログラムも多彩。科学イベントや工作教室など地域の子ども向けのイベントを企画・開催する「科学ボランティアリーダー養成プログラム」、その他「マナーマイスター養成」や「リーダー養成」プログラム、ぶどうの生産からワインの製造、販売までの一連の過程を実践的に学べる産学官連携カリキュラムの「ワインプロジェクト科目」など、人・地域・社会と関わり、多様な学問を通して社会課題を発見・解決できる能力を育成します。



大学の外観(芝生 + A1号館)



七夕エコナイト2



ワイン仕込み実習

環境への取り組み

環境への取り組みの一環として2008年度より毎年7月に「七夕Eco night」を開催。学生が主体となった取り組みで、主な実施内容はキャンパス内の安全確保に抵触しない範囲で20時以降の消灯を呼びかけ、学生による食堂の廃油を利用したEcoロウソクの作製、学生と教職員が環境問題について理解を深めるミニ講演会や研究発表、教職員にはできるだけ車の利用を控えるよう呼びかけるマイカー乗るまあday、など地球温暖化と環境問題を考えるイベントを開催しています。

芝浦工業大学

大学紹介

芝浦工業大学は、1927年に有元史郎によって東京高等工商学校として創立されました。現在では、東京都とさいたま市に3つのキャンパス(芝浦、豊洲、大宮)、4学部1研究科を有し、約9,000人の学生と約300人の専任教員が所属しています。創立100周年を迎える2027年にはアジア工科大トップ10となることを目指し、教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。



豊洲キャンパス

環境に配慮したキャンパス

2022年3月に竣工した豊洲キャンパス本部棟は、地上14階、地下1階の建物となっており、街区に面する斜めのファサードは本学が目指す「未来に向かい発展と成長する姿」を示しています。建物の外装は、アルミルーバを用い、建物内部へ進入する日射遮蔽効果を図るとともに、複層ガラスやLOW-Eガラスの採用により、空調負荷の低減を図っています。また、教室、オープンラボ、共用部を積極的に自然換気することにより、空調使用時間の短縮、空調負荷を低減しています。さらに、照明人感センサー制御や明るさセンサー制御、高効率エアコンや全熱交換機等のエネルギーを無駄なく上手に使うアクティブ技術を積極的に採り入れています。他にも、雨水をろ過処理し、トイレ洗浄などの雑用水として再利用することで節水を図っており、環境へ配慮した建物としています。



2022年3月に竣工した豊洲キャンパス本部棟

脱炭素化施策を考える探究授業をデザイン

山形県の九里学園高等学校において、カーボンニュートラルシミュレーター(以下、CNS)を使用した地域脱炭素に向けた探究授業を、建築学科栗島教授と土木工学科谷田川教授が実施しています。CNSは、基礎自治体別に2050年の脱炭素化を実現するための様々な対策についてシミュレーションするシステムとなっており、気候変動が生徒自身が居住する地域に与える影響を調べ、脱炭素化に向けた検討を行っています。

芝浦工業大学では、「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション(環境省)」や独自の環境マネジメントに取り組んでいます。これらの活動を通して、教育研究機関の社会貢献を実現していきます。



九里学園高等学校で実施した探究授業の様子

賛助会員紹介

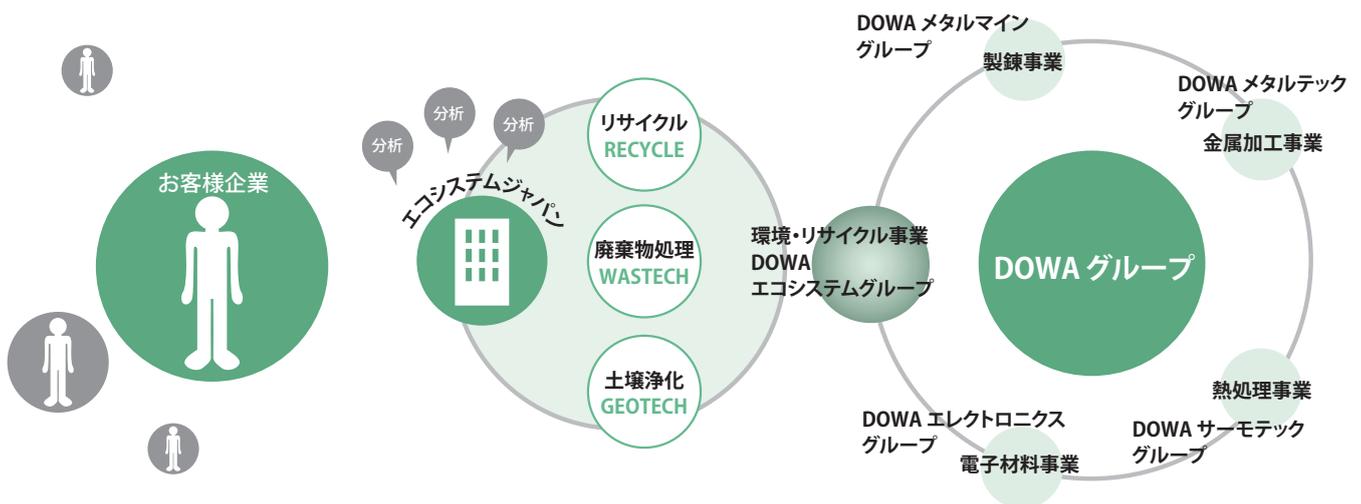
エコシステムジャパン株式会社

DOWA

DOWAホールディングス株式会社は、1884年に秋田県の小坂鉱山にて創業。

138年間の長きにわたって鉱山・製錬の現場で培った技術力を大きな強みとし、「リサイクル」「廃棄物処理」「土壌浄化」などについてお客様のご要望を伺い、最適なサービスを提供しています。

環境・リサイクルのプロフェッショナルである私たちエコシステムジャパン株式会社は、お客さまへの総合窓口として、廃基板やスクラップ等に含まれる有価金属のリサイクルのほか、廃棄物となった試薬や低濃度PCB、消火薬剤に含まれるPFOSなどの処理にも幅広く対応しております。



リサイクルや産業廃棄物(特別管理・有害廃棄物含む)のご用命の際には、
下記担当までお問い合わせをお願い致します。

お問い合わせ先

エコシステムジャパン株式会社

0800-222-5374 【月～金】：9:00～17:00 (土日祝日を除く)

ホームページ： <https://www.ecosystem-japan.jp/>

島津トラステック株式会社



島津エス・ディー株式会社は
2022年4月1日より
島津トラステック株式会社としてスタートしました

2022年4月1日より 株式会社島津製作所のグループ会社である
島津エンジニアリング株式会社と島津エス・ディー株式会社が合併し、
島津トラステック株式会社として新たな一歩を歩みだしました。

島津トラステックはこれまで両社が培ってきたハードウェアとソフトウェアの
技術力を融合することで、事業基盤を強固にし、これまでの事業領域にとらわれず、
新しいことにチャレンジし、目まぐるしい世の中の変化に対応するとともに、
引き続き、社は「科学技術で社会に貢献する」を体現して参ります。



会社概要

Company Profile

■ 会社名	島津トラステック株式会社	■ 役員構成	代表取締役	鈴木 悟
■ 統合	2022年4月1日	取締役	門脇 利生	
■ 資本金	5,000万円	取締役	大隅 太郎	
■ 株主	株式会社島津製作所 100%	取締役	徳岡 智	
■ 社員数	369名(2022年4月)	取締役	富田 司	
		取締役(非常勤)	土淵 毅	
		取締役(非常勤)	中村 完	
		監査役(非常勤)	井尻 亮	

事業案内

Business Lines

- 分析機器・計測機器・医用機器・航空機器・産業機器および研究部門のハードウェア、ソフトウェアの開発・設計。
- 医療情報・物流管理・薬品管理・自動分析前処理装置などの独自製品の開発・製造・販売。
- 取扱説明書、サービスマニュアル、IQOQ など技術資料制作業務。



卓上支払機
MerC



検量ピッキングカート
FloorMasterPICs



薬品管理システム
CRIS



自動分析前処理装置
ATLAS-LEXT

島津トラステック 株式会社

本社 〒604-8445 京都市中京区西ノ京徳大寺町1
電話：075-823-2821 FAX：075-823-2822
URL：https://www.shimadzu.co.jp/stt/



化学物質と付き合うために

化学物質の中で有機化合物は、炭素酸化物、シアン化物、炭酸化合物などを除いた炭素を中心とする地球上の動植物に関わる重要な化学物質である(本稿では、有機化合物を中心に話を進める)。とくに、分子中の炭素原子が酸素、硫黄、窒素などのヘテロ原子に一部置き換わると、ある種の有機分子は水素結合などを介して、他の有機分子あるいは生体の高分子構造と密な相互作用を持つことができる。つづいて、生体中の分子は連鎖的に相互作用を起こして、ついには生命活動につながることになる。当協会の重要な任務の一つが、このような有機化合物を含む化学物質をいかに安全に取扱うか、ということにある。

実際に周囲を見渡すと、我々は化学物質に囲まれており、その数は増加の一途をたどっている。我々の大多数は化学に対して素人であり、化学物質自体が安全か否かの決断を専門家に委ねることになる。例えば、新型コロナ感染が大きな脅威となった当初は、次亜塩素酸(HO-Cl)という強力な酸化剤のミストを噴霧すれば大丈夫ということで、大規模な設備が設置されたのも記憶に新しいところであ

る。その安全性については多くの報告がなされているが、筆者としては何度も次亜塩素酸のミストを浴びることは動弁願いたいところである。

日頃お世話になる医薬品にしても、ほとんどが合成された化学物質に依存している。化学物質=毒という信仰から、自然から採取されたものが一見安全なように思える。ところが、多くの化学物質には現在の分析技術では感知できない微量成分を含有する可能性がある。これらが体内で蓄積することによる、怖い副作用の可能性を絶えず考慮すべきである。

現在の化学療法では、安全性が確かめられている既存のサプリや医薬品をそれぞれの疾患に応用するとともに、糖質、たんぱく質、核酸などの生体高分子も医薬品の範疇に入っている。このように多様な化学物質を人間が摂取し、それらが体内で蓄積したとき、長いスパンでの安全性、起こり得る副作用を、いかに予測し対処していくか、今後重要な課題と考えている。

私立大学環境保全協議会 顧問 西山 繁
(慶應義塾大学 名誉教授)

事務局だより

第35回 夏期研修研究会ご案内

【会場】

早稲田大学研究開発センター(121号館)
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町513
TEL 03-5273-9605(私大環協事務局)



【研修研究会】(参加費: 1名 5,000円)

【第1日】 2022年8月25日(木) (対面・ライブ配信)

◇講演会 13:00~16:30

早稲田大学 森本英香教授による「環境政策」の話題、労働安全衛生総合研究所 城内博先生による「自律的化学物質管理」の話題のほか、「電気・エネルギー」に関する話題の3題をお届けする予定です。

◇デモ展示・懇話会 16:30~

会場には賛助会員による対面でのデモ展示および会員間の意見交換のための懇話会場を設ける予定です。
(飲食物のご用意は控えさせていただきます。)

【第2日】 2022年8月26日(金) (対面のみ)

◇グループ討議 9:00~11:30

※I~IIIグループから一つ選択してご参加ください。

I: 教育と連携

「SDGs未来都市と大学の役割を考える」

内閣府より「SDGs未来都市」に選定された東京都豊島区の出組事例に関する紹介講演を参考に、持続可能な開発とまちづくり、地域連携と大学の役割について意見交換を行います。

II: 化学物質

「新たな化学物質管理体系や新実験棟建設に向けた対応などについて」

前回のグループ討議で取り上げた、新実験棟建設に向けた対応や、厚生労働省にて検討されている化学物質管理体系の見直しなどについて、複数のグループに分かれて、テーマに応じた意見交換などを行うことを予定しています。

III: 施設・設備

「脱炭素先行地域において大学に求められる役割について」

環境省が2050年カーボンニュートラルに向けて2025年までに100か所の選定を進めている脱炭素先行地域において、大学に期待される取り組みなどについて情報提供、意見交換を行います。

◇デモ展示・懇話会 11:30 ~ 12:00

◇キャンパス見学会 12:00 ~ 13:00

早稲田大学121号館ほかの見学会を予定しています。

講演会は、来場ならびにオンラインライブ配信(Zoomのウェビナー機能利用を予定)でのご参加が可能です。また、後日オンデマンド配信も予定しております(要事前申し込み)。グループ討議につきましては、対面での開催のみとなります。

講演会・グループ討議の詳細は、開催案内(7月1日配信予定)にてお知らせいたします。プログラムは変更となる可能性がありますので、最新の情報を協議会ホームページにてご確認ください。なお、講演会来場者への資料配布は行いませんので、事前配信資料をご利用ください。

私大環協ニュース

第72号 2022年6月発行

発行・編集



私立大学環境保全協議会

Environmental Protection Association of Private Universities

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学環境保全センター内

TEL & FAX 03-5273-9605

印刷 (株)研恒社

